

検討委員会における委員意見と事務局回答（要旨）

区 分		委員意見	事務局回答
共通	予算	プラス方向での事業展開である。 どれくらいの予算をかけるつもりか。	定年年齢の引き上げが開始となり、組合員数の予測が難しく、予算の見通しもつかない状況。組合員数や掛金収入等の状況を見ながら拡充する予定である。
共済組合	人間ドック	人間ドックについて、協会けんぽで利用できる医療機関は多数で、かつ、胃カメラも検査方法を選択できる。学校共済も医療機関の拡充に加えて選択できる様になると良い。	医療機関については31施設まで伸ばしてきたが、まだ不足と考えている。拡充する医療機関を選定中である。選定の際の一つの指標とさせていただきます。
		人間ドックについては、①受診枠と希望者のミスマッチ ②紙による受診申込み が問題だと思う。 (紙ベースの受診申込みを) 集計する学校共済の担当も大変、空き状況が不明なまま、ドックを申し込み、結果判明まで待たされる組合員も大変である。空き状況を確認して申し込めるのが理想的。	セキュリティの関係で共済組合とのデータのやり取りが難しい状況であり、改善を模索中である。 おっしゃるとおり、今後もペーパーレス化になっていくはずであり、検討が必要な大きな課題と認識している。
		最近の若い先生方は健康志向が高く、自主的に人間ドック受診を申し込むが、夏休み中を受診希望とする職員が大半で、落選すると諦めて定期健康診断に切り替えてしまう。受診希望者が増える中、受診枠が拡大するのは有難い。	引き続き受診枠の確保に努める。
セミナー	元気力アップセミナーの内容を聞く。	食生活に係る座学、次はインストラクター指導の下、ヨガ・ピラティスの体験、その後に各参加者の体脂肪率等、身体状態を調べる検査を実施する内容である。	
	・方向性でセミナー等の内容見直しが上がっている。初期のメンタル不調の職員向けに外出や運動等を促すセミナーを定期で開催するとか、家庭に問題を抱えた方向けのセミナーを対面開催することで、参加者のネットワーク形成に繋げるといったことができるとう良い。 ・トレーニング利用施設の利用拡充といった案もあった。こうした施設での講習やヨガやダンス等の講座を開催し、学校と自宅の往復という毎日から離れて、外の世界に目を向けるよう、組合員に参加を呼びかけてほしい。	現在、リフレッシュを目的としたセミナーの参加者を募集しているところで、応募が多く、特に女性から大変人気である。メンタルの場合、相談するとか、聞いてもらうことも大切だが、委員からのご指摘のとおり、リフレッシュも大切な着目点である。 (厚生事業等の見直しの方向性で対応)	
	元気力アップセミナーやリフレッシュの講座を望む教職員は、私含め存在する。少しでも機会を増やして欲しい。	(厚生事業等の見直しの方向性で対応)	
	学校現場ではストレスを抱える教員が多い。具体的アドバイスを行う中で、学校共済の事業を紹介している。多寡に関わらずニーズはあるので拡充をお願いしたい。	(厚生事業等の見直しの方向性で対応)	

互助会	災害見舞金	<p>災害見舞金の給付対象拡大については賛成である。給付基準そのものの見直しを検討する余地はあるのか。</p>	<p>基となる共済組合事業が全国一律で実施しているため、当支部・互助会単独で見直すことは難しい。今回は給付基準から漏れた方に対し、比較的融通の利く互助会で独自の基準を設け、実施しようというものである。全国的に事例がほとんどないので慎重に進めていきたい。</p>
		<p>給付基準は「損害の1/3」とあるが、何に対する1/3か。面積、または評価額か。</p>	<p>組合員が居住する住居及び家財で1/3以上は損害程度で給付額が異なる仕組み。 1/3以上の消失又は滅失。修理可能な部分は対象外となる。ほとんどのケースで給付に至らず、直近では令和4年8月の小松の大雨で1件有ったのみ。</p>
		<p>趣旨としては大変良いがきちんとした予算立てが必要である。費用が膨大になったことにより破綻したといった事態になってはいけない。全国の基準を見ながら少しずつお願いしたい。</p>	<p>今後5年間の計画である。事業開始のタイミング等、資金を見ながら進めたい。</p>